Title	戦前における韓国教会の公的関心について
Author(s)	高，萬松
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.19-3 : 8-9
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2328
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

研究ノート

戦前における韓国教会の公的関心について

高　萬松

Ⅰ

2009年度前学期の3ヶ月間、韓国のソウルにある長老会神学大学校で研究する機会が与えられ、感謝である。主な関心分野は、日本統治下での韓国教会の実態であった。日本帝国主義の基本的路線はキリスト教敵対政策であった。そのため、結果的に韓国教会は歴史において、一方では日本帝国主義の強圧による「屈服」という汚点を残し、他方ではその屈服を殉教の血で洗う「抵抗」の記録を残している。韓国教会が神社参拝に屈服したことで、多くの教会と牧師たちが堕落の道を歩んだことも事実であろう。牧師たちは神社の儀式にまで参加したこともある。神社参拝を反対したということで、約2,000人以上のキリスト者が監獄や刑務所の中に入り、およそ50人は殉教したと言われている。 今まで韓国では朱基徹(ジュ ギ チョル)牧師が殉教者の代表として知られていた。朱牧師と言えば、監獄において殉教されたが、最後に拘留される前に彼が平壌で日本基督教会の富田満牧師と論争したことは周知の通りである。神社参拝を国家儀式だと主張した富田に対して、それが偶像崇拝だと応酬した朱。天皇に寄るか、十戒を与えた神に寄るか。二人のあり方は歴史のアイロニーであるが、歴史は真理を審判で証明したのである。今回、私は、長老会神学大学の林熙國(イムヒクック)教授によって、李源永(イ ウォンヨン)牧師の存在を初めて知ることができた。李は抵抗を続けていた最中、1945年8月の「解放」の時、出獄された。それは神の摂理と見てよいであろう。

Ⅱ

韓国教会は公的責任を成し遂げて来たのか。林教授の分析によれば、韓国の長老教会は草創期から1930年代までは社会的公的責任に寄与した。最初の教会が設立され、その後約40年間、教会は社会に対して与えられた責任を成し遂げた。が、1930年代になってから農村を啓蒙しようとする「農村運動」が起こった。長老教会の内部でその運動に対する賛否両論の最中、「皇民化政策」が始まった。つまり、その時代から韓国教会は責任を果たすことができなくなったであろう。「解放」の一ヶ月前の1945年7月になると、韓国の長老教会の本体がなくなる事態にまでなり、韓国教会は絶望的な状態であった。また解放後、神社参拝問題で分裂した教会はその収拾に力を奪われ、結局先の世代が担っていた公的責任を継承することができなかったのである。

初期韓国教会の公的関心事は、教会設立は勿論のこと、それ以外に宣教師たちによる病院、学校、聖書とキリスト教関連の新聞、書籍の翻訳と出版など、社会にアピールしたものは少なくなかった。そのようなハードウェア的な働き以外に、ソフトウェア的な働きは空虚な民衆の魂に聖書の神信仰を植え付け、さらにその信仰と聖書の教えの上で社会を改革したことである。例えば、身分制の打破、人権の拡大、偶像崇拝の撤廃など。特記すべきは、1907年に組織された「新民会」という秘密結社が「君主制」を廃止し、「共和制」を主張したことである。これは韓国の歴史上、画期的なことと言わざるを得ない。その結社には宣教師も二人加入している。われわれはその結社の源流に、ピューリタンのクロムウェルと同様の思想的基盤が据えられていたと見たい。もしそうだとすれば、それは教会における公的関心の頂点ではないかと思われる。

Ⅲ

「解放」と共に、神社参拝の反対者たちは出獄した。李源永(イ ウォンヨン)牧師はその代表的存在の一人である。李は、1919年の三・一独立運動に主動者として参加したという理由で、一年間、ソウル西大門刑務所に収監された。その中でキリスト教に改宗し、後に牧師となった。当時、長老教会の総会

さえ神社参拝を認めた社会的状況の下で、李は、神社参拝も、創氏改名も、東方遥拝もすべてしなかった。その理由で4回、投獄されたのである。「解放」後、大韓イエス教長老会の総会長を歴任した時、当時の副総会長が永楽教会の韓景職（ハンキョンジック）牧師であった。韓は神社参拝をしたため、総会長になれなかった。しかも、二人は神社参拝の問題で分裂していた当時の教会の和解のために尽力したと伝えられている。筆者は、李牧師の遺品展示室（大邱市所在）を尋ね、李牧師の御令嬢たちから当時の状況の一部について伺ったことがある。「解放」後、韓国人が日本を軽蔑する言葉（日本の奴）を使うと、李は、彼らに「日本人」という言葉を使うように教えたそうである。李の人格を表す逸話であろう。実際、展示室に展示されている遺品は先生の人格を表すのに十分である。先生の使っていた聖書には小さな文字で解釈が書かれており、先生が改宗される前に作った漢詩集にはまるで活字で印刷したような綴りが残っている。李牧師の死後、韓牧師が碑文を書いた。そこにに彼の出身のよさを示す言葉があるが［훌륭한 가문］、それは李牧師が朝鮮時代の五賢の一人と呼ばれている李退渓（イテゲ）の14代目子孫だという意味である。戦前の韓国教会の持った公的関心は次の一文に含蓄されていると思われる。李牧師の説教ノートから見つけた言葉。「公は私の根本である」。

李牧師の御令嬢たち（韓国・大邱市、鳳卿李源永牧師記念展示室にて）

（筆者は、聖学院大学と長老会神学大学校との交流提携にもとづいて、2009年5月11日から8月7日まで長老会神学大学校に派遣された）

（こう・まんそん　聖学院大学総合研究所助教）